

進めよう・広めよう・
高めよう 文化の輪

第61回

吟と舞



～ 特別企画 ～

今池子ども食堂の生後さんによる初めての詩吟

と き 令和7年3月8日(土曜日)

(開場) 10時

(開演) 10時30分

と ころ 文化パルク城陽 ふれあいホール

(城陽市寺田今堀一番地)

主管 運営 城陽市詩吟舞連盟
主催 城陽市文化芸術協会
後援 城陽市・城陽市教育委員会・(公財)城陽市民余暇活動センター

大 会 役 員

会 長	今西謙莖
副会長(主担当)	岩佐楽風(事業) 藤原昭風(広報) 白田瀨嶽(総務) 荒川 寿貴(文化芸術協会理事)
司 会	岩佐楽風 水谷寿翠
受付・接待	白田容山 吉原寿梨 山川英風
進行・連絡	間秀健 杉山博一
会 場	藤原昭風 西村水央 村上寿祥
音 響	荒川寿貴 稲見寿尋
救 護 班	今西謙莖 岩佐楽風 水谷寿翠

大 会 次 第

- 1、開会宣言 城陽市詩吟舞連盟 大会副会長 白田瀨嶽
 - 1、国歌斉唱 城陽市詩吟舞連盟 大会副会長 岩佐楽風
 - 1、会長挨拶 城陽市文化芸術協会 会 長 津守俊一 様
 - 1、会員吟詠(その-1)
 - 1、会員吟詠(その-2)
 - 1、特別企画 今池子ども食堂の生徒さんによる初めての詩吟
今西謙莖
- 休 憩(昼食)
- 1、大会会長挨拶 城陽市詩吟舞連盟 会 長 今西謙莖
 - 1、会員吟詠(その-3)
-
- 1、来賓詩舞(その-1) 正親流 総師範 丸山 嬉風 先生
 - 1、構 成 吟 “新橋発 ふるさと号発車” ~郷愁をのせて~
企 画 岩佐楽風
 - 1、来賓詩舞(その-2) 正親流 総師範 丸山 嬉風 先生
 - 1、会員吟詠(その-4)
 - 1、閉会之辞 城陽市詩吟舞連盟 大会副会長 藤原昭風
 - 1、万歳三唱 城陽市詩吟舞連盟 大会理事 間 秀健

会 員 吟 詠 (その-1)

No	吟 題	作 者	サークル名	資 格	吟 者	本数	伴奏	曲番
1	九月十三夜陣中作	上杉謙信	神心流	無 伝	こやまりゆうたろう 小山隆太郎	1	燦燦	5
2	冬夜書を読む	菅 茶山	神心流	無 伝	やました ますこ 山下 添子	5	燦燦	5
3	海 望	藤井竹外	神心流	無 伝	くさか つとむ 日下 勤	2	燦燦	1
4	春を探る	戴 益	神心流	無 伝	さえき よねこ 佐伯 米子	4	燦燦	1
5	偶 成	西郷南洲	神心流	無 伝	ますだ たくゆき 増田 卓之	1	燦燦	1
6	春 暁	孟浩然	神心流	無 伝	むらた しんぺい 村田進平	水1	燦燦	5
7	峨眉月月の歌	李 白	神心流	無 伝	すぎやま ひろかず 杉山 博一	1	燦燦	9
8	舟中子規を聞く	城野静軒	司心流	初 伝	ふじた とみこ 藤田 登美子	4	燦燦	5
9	偶 感	西郷南洲	司心流	初 伝	よしかわ ひさお 吉川 尚男	水1	燦燦	5

会 員 吟 詠 (その-2)

No	吟 題	作 者	サークル名	資 格	吟 者	本数	伴奏	曲番
10	青葉之笛	松口月城	城陽詩吟塾	四 段	かわさき じゅせん 川崎 寿川	7	燦燦	5
11	竹	宮崎東明	城陽詩吟塾	四 段	いちい じゅせい 櫛 寿正	水1	燦燦	5
12	川中島	頼山陽	城陽詩吟塾	四 段	むらかみ じゅしょう 村上 寿祥	1	燦燦	5
13	再到楓橋	張 継	白田現代詩	上 伝	ひらき すいりゅう 平木 水琉	1	コンダクター	
14	静 夜 思	李 白	白田現代詩	上 伝	もりかわ すいしょう 森川 水勝	1	コンダクター	
15	客中絶句	元 政	白田現代詩	奥 伝	にしむら きざん 西村 輝山	3	コンダクター	
16	九段の桜	本宮三香	城陽詩吟塾	師範代	いなみ じゅしん 稲見 寿尋	6	燦燦	5
17	余 生	良 寛	城陽詩吟塾	師範代	みずたに じゅすい 水谷 寿翠	5	燦燦	5
18	花朝下灘江	藤井竹外	城陽詩吟塾	師範代	よしはら じゅり 吉原 寿梨	6	燦燦	5
19	時に憩う	良 寛	城陽詩吟塾	師範代	にしうら じゅかん 西浦 寿観	5	燦燦	5
20	特別企画 今池子ども食堂の生徒さんによる初めての詩吟 兎と亀 松口月城(童子) 石原和三郎(童謡) 偶 成 朱 熹						いまし けんしょう 今西 謙昌	
					童子 4	燦燦 8		
					4	燦燦 8		

<< 休 憩 (昼食) >>

大会会長挨拶

21 城陽市詩吟舞連盟 会長 いまにし けんしゅう
今西 謙莚

会員吟詠 (その-3)

No	吟題	作者	サークル名	資格	吟者	本数	伴奏	曲番
22	九段の桜	本宮三香	司心流	準師範	おかべ しんぶろう 岡部 眞風	4	燦燦	5
23	西南役陣中作	佐々克堂	白田現代詩	準皆伝	しみず たいざん 清水 泰山	1	コンダクター	
24	芳野	河野鉄兜	白田現代詩	準皆伝	うすだ ようざん 白田 容山	6	コンダクター	
25	貧交行	杜甫	白田現代詩	準皆伝	ふくもと びざん 福本 琵琶山	6	コンダクター	
26	海南行	細川頼之	神心流	総伝	はざま しゅうけん 間 秀健	水1	燦燦	10

来賓詩舞 (その-1)

No	吟題	作者	出演者
27	涼州詞	王翰	(詩舞)正親流総師範 丸山 嬉風 先生 (吟者)司心流総師範 中西 穂風 (伴奏) 4本 燦燦 5番

構成吟 (内容別紙)

No	構成吟	出演者
28	新橋発 ふるさと号発車 ～郷愁をのせて～	いわさ しふう 企画 岩佐 素風 城陽市詩吟舞連盟

来賓詩舞 (その-2)

No	吟題	作者	出演者
29	寒梅	新島襄	(詩舞)正親流総師範 丸山 嬉風 先生 (吟者)司心流総師範 藤原 昭風 (伴奏) 2本 燦燦 1番

会 員 吟 詠 (その-4)

No	吟 題	作 者	サークル名	資 格	吟 者	本数	伴奏	曲番
30	兩 英 雄	徳富蘇峰	城陽詩吟塾	準師範	さかい じゅこう 坂井 寿光	2	熾熾	5
31	春を探る	戴 益	城陽詩吟塾	師 範	あらかわ じゅき 荒川 寿貴	2	熾熾	5
32	汪 倫に贈る	李 白	司心流	師 範	やまかわ えいふう 山川 英風	4	熾熾	5
33	春日山懐古	大槻磐溪	司心流	師 範	わかやま びんぼう 若山 敏風	水2	熾熾	5
34	三樹の酒亭に遊ぶ	菊地溪琴	司心流	師 範	おかもと かつふう 岡本 克風	水1	熾熾	5
35	勸 学	木戸孝允	司心流	師 範	しろがうち むふう 城垣内 無風	2	熾熾	5
36	金 剛 山	山岡鉄舟	城陽詩吟塾	上師範	でしま じゅしゅう 出島 寿承	2	熾熾	5
37	山中問答	李 白	白田現代詩	上師範	うすだ せいかく 白田 滯嶽	2	熾熾	11
38	花朝瀬江を下る	藤井竹外	神心流	総師範	たかぎ ようふう 高木 煬風	5	熾熾	2
39	西南の役陣中の作	佐々友房	司心流	総師範	なかにし すいふう 中西 穂風	4	きらめき	5
40	静 夜 思	李 白	司心流	総師範	ふじはら しょうふう 藤原 昭風	2	熾熾	1
41	平泉懐古	大槻磐溪	神心流	総師範	いわさ しふう 岩佐 棗風	8	熾熾	9
42	舟中子規を聞く	城野静軒	神心流	上席 総師範	かなざき きんぼう 金崎 欣風	1	熾熾	6
43	令和6年度 京都府詩吟連盟 指導者の部コンクール優勝者吟詠 楠公詠史 藤田 東潮			神心流	岩佐業風	8	熾熾	20

会 長 吟 詠

44	富 嶽	乃木希典	あやめ 吟詠会	高師範	いまにしけんしょう 今西 謙莒	4	熾熾	8
----	-----	------	---------	-----	--------------------	---	----	---

閉 会 之 辞

45	城陽市詩吟舞連盟	大会副会長			ふじはら しょうふう 藤原 昭風			
----	----------	-------	--	--	---------------------	--	--	--

万 歳 三 唱

46	城陽市詩吟舞連盟	大会理事			はざま しゅうけん 間 秀健			
----	----------	------	--	--	-------------------	--	--	--

構成吟

『新橋発 ふるさと号発車 く郷愁をのせてく』

構成 岩佐泰風

(ナレーション)

まずは鉄道唱歌を、お聞きください。

汽笛一声 新橋を はや我 汽車は離れたり
愛宕の山に 入りのこる 月を旅路の 友として

はるかに見えし 富士の峰 はや我がそばに 来たりたり
雪の冠 雲の帯 いつも気高き 姿にて

夏は納涼^{すずみ}の 四条橋 冬は雪見の 銀閣寺
桜は春の 嵯峨御室 紅葉は秋の 高尾山

(ナレーション)

季節ごとの唱歌と詩吟で、お楽しみください。

朧月夜 (唄) 菜の花畠に 入日薄れ 見わたす山の端 霞ふかし

春風そよふく空を見れば 夕月かかりて におい淡し

詩吟

あやめ吟詠会

今西 謙吉

4本 | 8番

「春 夜」 蘇 東城

春

(唄)

春のうららの隅田川 のぼりくだりの船人が

権^かのしずくも花と散る ながめを何に たとらげき

詩吟

司心流

山川 英風

岡部 眞風

4本 | 5番

「花朝澱江を下る」 藤井 竹外

茶摘み

(唄)

夏も近づくと八十八夜 野にも山にも 若葉が茂る

あれに見えるは茶摘みじゃないか あかねだすきに菅の笠

詩吟

白田現代詩

福本 琵琶山 白田 容山 コンダクター

「春簾雨窓」

頼 鴨厓

富士山

(唄)

頭を雲の上に出し 四方の山を見おろして

雷さまを 下に聞く 富士は 日本一の山

詩吟

白田現代詩

清水 泰山 西村 輝山 コンダクター

森川 水勝 平木 水琉

「富士山」

石川 丈山

夏は来ぬ

(唄)

卯の花の匂う垣根に ほととぎす 早もきなきて

しのびな

忍音もらす 夏は来ぬ

詩吟

城陽詩吟塾

岸 寿瑛

4本 | 5番

「三樹の酒亭に遊ぶ」

菊地 漢琴

荒川 寿貴

2本 | 5番

「清明」

杜 牧

故郷

(唄)

うさぎ追いしかの山 こぶな釣りしかの川

夢はいまも巡りて 忘れがたき ふるさと

詩吟

神心流

高木 燭風

5本 | 5番

「親を思う」

廣瀬 淡窓

鎌倉 (唄) 七里ヶ浜の いそづたい いなるがさき 種村ヶ崎 名將の
剣 つるぎ 投ぜし 古戦場

詩吟 神心流
岩佐 桑風 8本 — (10) 番
「いなるがさき種叢懐古」 ださいしゆんたい 太宰 春台

桜井訣別 (唄) 青葉茂れる 桜井の 里のわたりの夕まぐれ
木の下 陰に 駒とめて 世のゆくすえを つつづく
忍 しのぶ 鎧の 袖の上 散るは涙か はたつゆか

詩吟 神心流
間 秀健 水1本 — (10) 番
「楠公児に別るるの図に題す」 頼 山陽

〔ナレーション〕

皆さま、お楽しみ頂けましたでしょうか。 それでは最後に 参加者全員、

各席の皆さまも ご一緒に 荒城の月 をご唱和お願い致します。

「荒城の月」

春高樓の 花の宴 めぐる盃 かげさして

千代の松ヶ枝 わけいでし 昔の光 今いつこ

秋陣營の 霜の色 鳴きゆく雁の 影みせて

植うる剣に 照りそいし むかしの光 今いつこ

ご静聴 ありがとうございます。